

平成 29 年度本会員活動方針  
～相互理解、相互研鑽～

代表幹事 農林水産省 横田美香

浩志会への入会まもなくの頃、浩志会の立ち上げの背景に、“国の組織の縦割りをなくし相互理解の土壌があったなら、無謀な戦争に突き進むことを防げたのではないか、日本のこれからを担う者が、組織の違いを越え相互に理解し、本音の議論ができるように”、という思いがあったというお話に、感銘を受けました。それから 4 年間の浩志会活動の中で、さまざまな世界で活躍されている方、強い思いを持って新しい取組に踏み出しておられる方、そして一緒に活動をしてきた仲間に、多くの新しい視点、視座をいただきました。

今回、代表幹事を仰せつかったことをきっかけに、浩志会を設立された上村健太郎先生の書き残された浩志会設立趣旨を拝読しました。変化の激しい現在においても、色あせず今に生きていると感じます。(本活動方針の最後に、引用させていただきます。)

今、世界政治は不透明感を増しています。英国のEU離脱、米国のトランプ政権誕生、北朝鮮のミサイル発射・核実験、世界各地で起こるテロ。一方で、日本は人口減少社会に突入して 7 年、多くの業種で人手不足が生じ、働き方改革は社会として避けられない状況であることに加え、経済活動における国境はますます低くなり、職場の国際化、AI の実用化などの技術革新は進み、世の中の風景を変えつつあります。「米国で 2011 年度に入学した小学生の 65% が現在存在しない職業に就くだろう」と指摘する研究者もいます。

残念ながら、人口増加を背景とした国力はもはや日本にはなく、経済においてはグローバルな競争にさらされ、相対的な地位が低下していく。私達はその中で、日本の強みを認識し、今後国際的にも足場を持ち、経済における競争力、国民の生活や幸福力、そして世界への貢献を追求していく必要があります。さまざまな状況の変化を前に、日本はどのような方向に進むのか、どう行動するか、どういう将来像を描くのか、また、その前に、自分の所属する組織はどう変化していく必要があるのか、大きな問いが、私たちに突き付けられています。

前例には従えない、目指す姿もこれまでのモデルでは対処できない、そんな中で、それぞれが常に柔軟に思考し、行動に繋げ、それを検証し、時には失敗も認めながら進んで行かざるを得ない。

浩志会活動自体についても、やはり変化への対応という課題が突き付けられていると思います。

以上の問題意識の下、本年度の浩志会本会員の活動方針として、会員の皆様には、

以下のことをお願いする次第です。

### <活動方針>

#### (1) 相互理解、相互研鑽という浩志会の基本に立ち返る

浩志会が発足して、今年は35周年。会員の数も1,600人を超えました。歴史も長くなり、組織も大きくなりましたが、それにより、参加者の意識が変わってきているのも事実でしょう。

ここで改めて、浩志会の基本に立ち返り、考えてみることを活動方針の一つとしたい。一人ひとりが、「日本の国家と国民の進むべき道」を研究する、その土台として、会員同士理解し合い、研鑽し合うという基本を、今一度認識したいと思います。

特に、一年の活動の中で、相互研鑽の場と言えるのが創立記念総会（平成29年11月16日（木））と夏季全体研修会（平成30年8月25日（土））です。是非ご予定いただき、これを中心に、可能な限り、グループ活動や様々な企画にご参加いただきたいと思います。

また、会員にもお子さんのいらっしゃる女性も増えていきますし、ワーク・ライフバランスも考える必要も出てきています。どのように参加していくかを、会員個人も、活動の実施方法について考えていただきたいと思います。幹事団でも、この点は話し合っていきたいと思えますし、会員の皆さんが活動の全体像を把握できるよう、工夫していきたいです。是非皆様からもご意見をいただきたいと思います。

#### (2) 未来について考える

社会の中では、不条理なことが起きているし存在します。世界各地で起こるテロは、人々を分断させる圧力になっています。イスラム系移民の若者の置かれた状況を、勇気を持って人々の気持ちにまで迫り、問題点をあぶり出し伝えている映画監督がいます。国内でも、生きにくさを感じていたり困難に直面している子供、若者がいて、そうした子供達とコミュニケーションをとる仕組みをつくり、支援等の活動をしている人達もいます。様々な立場の人々、また、様々な思いを持った人々の気持ちへの理解、そして、それらを具体的な行動にまで繋げていくこと。そういった未来を担う若い人達を思い、日本の未来を考えることを意識したいと思います。

#### (3) 世界から見える日本を意識

日本がどうあるべきか、を考えるに当たって、世界から見える日本を意識することが重要でありながら、なかなか難しいことでもあると思えます。自分の国を第一に考える、利益を考えることはある意味当然のことではあります。内向き思考は視野を狭めます。ノーベル賞について日本の受賞者のみにフォーカスする報道に違和感を覚えますし、また、グローバルな視点からのルール形成への関与も十分でしょうか。浩志会は以前、日本の高校卒業生を開発途上国の大学に留学させることを目的とし、支援していたとのこと。メンバー同士、それから外部の方々含め、国際的視点やご経験

を共有いただき、議論ができればと思います。

#### (4) 本音の議論をする

私自身、見識も能力も到底及ばない浩志会の諸先輩方、会員の方々に対し、活動方針といった大それたことを書くことに躊躇を感じています。しかし、素朴な疑問をぶつける、恐れず自分の意見を持ち言ってみる、ということ会員同士であれば、新しい化学反応が生まれるのではないかと考えます。互いに意見を正面から受け止めていただけると信じています。

世代による考え方の違いも存在すると思いますが、それを乗り越え議論できる場として、浩志会ほどぴったりの場はないでしょう。「本音の議論ができるようになる」を実践していきましょう。

会員の皆さんは、それぞれの組織で重要な業務を担い、家庭、その他の活動で多忙を極めておられると思います。変化の速さ、情報の増加は、ますます個人の時間を奪っているでしょう。「何が自分にとって大事なのかを見定め、限られた時間に何をするか」を今まで以上によく考え、選択をしていかざるを得ない状況だと思います。それぞれの浩志会活動を、取り組むべき意義のあるものとしていただきたいと切に願います。

幹事の役目としては、会員の皆さんが浩志会活動に参加しやすい環境を作ることだと認識し、微力ながら、努力していきたいと思います。

日本の社会は、良くなっていると私は思います。様々な問題がありますが、これまで存在しているものの見向きされなかった問題が取り上げられるようになり、人々がその解決のために努力をされ、私達はその恩恵を受けている。個人の活躍、能力発揮のための環境、可能性は格段に高まっていると感じます。この国を将来の世代につないでいくために、新しい課題、状況への対応、創造の努力を続けていく必要があり、私達はその責任を有していると一人ひとりが自分事として認識したいと思います。

皆さんと、刺激にあふれた一年を過ごせることを、楽しみにしています。

#### <浩志会設立趣旨>

“国策の単なる研究、調査に止まらず、これに各省庁（これは現在「官民」となっている。）の代表的メンバー（中堅幹部級）の方々に、月一回お集まりを賜り、これからの日本をどうしたらよいのか、討論して頂きたいことにある。この目的の他に、各省庁中堅幹部の方々の協調、親睦を図る。国際的見地に立つ、日本の国家と国民の進むべき道の研究、青年層の教育事業計画のアイデアもあって、日本の将来のため、各省庁、経済界、文化人会、科学技術界等の青年の育成に役立ててもらいたい。”

故 上村健太郎先生